

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4590200079
法人名	医療法人 豊寿会
事業所名	グループホーム ふれあい園
所在地	宮崎県都城市高崎町東霧島752-3 (電話) 0986-62-2340
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 21 年 5 月 1 日

【情報提供票より】(21年4月14日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 20 年 6 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	13 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 12.8 人

(2)建物概要

建物構造	平屋 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,500 円	その他の経費(月額)	6,000~9,000 円
敷金	有() 円	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(4月14日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	8 名	要介護4	4 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 91.6 歳	最低	79 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	川井田医院、中崎歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは県道42号・都城野尻線沿いで車の往来が多少はあるものの、周囲は緑豊かな自然環境に恵まれた民家の一角に在る。昨年6月開設のホームは、事業所代表者及び管理者がこれまでの経験や認知症高齢者に対する思いの込められた建物で、利用者が安心してゆったり生活できる設えになっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	平成20年6月1日開設のため、今回は初めての評価である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	管理者はすべての職員に評価の意義や活用について説明しており、理解している。今回の自己評価を前向きに取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	運営推進会議ではホームでの取り組みや利用者の状態等を報告し、出席委員から要望や意見を聞き、双方向的な会議となるよう配慮している。出された意見や要望には前向きに取り組んでいる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	年1回開催している家族会や家族来訪時に気軽に意見や要望が出せるように配慮している。また、利用者一人ひとりの家族に職員が手書きの手紙を送り、意見を聞くようにしている。出された意見には前向きに取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	地域との触れ合いを大切にしている。ホームでのイベントには地域の方々に声かけをし、気軽に来訪してもらっている。今後は、地域の行事に参加する予定である。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者のこれまでの経験と認知症高齢者に対する思いが込められた事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念を共有し、ミーティング時に話し合い、意識づけがなされている。職員は利用者との日々の関わりの中で、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は地域との触れ合いを大切にしている。ホームでのイベントには地域の人々の来訪がある。今後は、地域の運動会等イベントに参加する予定である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は全職員に評価の意義や活用について説明しており、職員は理解している。今回の自己評価、外部評価を活かして前向きに取り組む姿勢がある。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業内容や利用者の状態等を報告し、出席委員から意見や要望を聞くなど双方向的な会議となるよう配慮している。出された意見や要望には前向きに取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市・町担当者との連携には管理者が携わり、助言等ももらっている。又、地区のケアマネージャー会議にも参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の来訪時には、利用者の状況や健康状態を伝えている。また、毎月1回、職員の手書きの手紙やふれあい新聞等により報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽に意見や要望が出せるように配慮している。出された意見や要望は運営に反映させるよう取り組んでいる。家族会を年1回開催し、家族の意向を集約する機会としている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は、1号棟及び2号棟を定期的にローテーション勤務をしている。ホーム全体として、利用者とは顔馴染の関係ができています。職員が異動した時は、利用者には直接紹介している。また、家族には、手紙やふれあい新聞等により紹介している。		ユニットごとの利用者と職員の馴染みの関係を深め、さらにユニットケアの利点を活かしてほしい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を育てるための法人内研修は定期的に行っている。法人外研修内容は、ミーティング時に発表して全職員が共有できている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管内グループホームネットワーク作りを行っているところである。管理者は同業者の勉強会では、講師として参加するなど前向きに取り組む姿勢がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前には、家庭を訪問したり、見学に来てもらうなどの工夫をしている。また、入居直後は、自宅周辺をドライブするなど利用者がホームに徐々に馴染めるような取り組みをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒に過ごすなかで、地域の行事やことばを教えてもらったり、また、菜園やあく巻き作りなどを一緒に行いながら、文化や生活の技を学ぶ場面がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の来訪時に、本人を交えて、利用者のこれまでの生活歴や楽しみにされていたことなどを聴きながら思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は利用者との日ごろの関わりの中で、本人や家族の意向を聴き、月1回のミーティング時に全員の意見を出し合って介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3か月に1回の定期的見直しの他、利用者の変化に応じて随時見直しを行っている。また、ホーム独自のケアプランチェック表で評価しながら、プランの見直しを行っている。	○	状態に変化のない場合にも月に1回は、モニタリングを行い、新鮮な目で見直しを行ってほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近隣の自宅で暮らす認知症高齢者に対して緊急時のデイの利用や認知症高齢者介護についての出前講座など支援体制がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族及び利用者の希望するかかりつけ医を受診できるよう支援している。又、協力医療機関での受診も良好な関係ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取り介護については、全職員で方針を共有しており、本人や家族の同意を得た上で、事業主体である医療機関と連携をとる体制がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護についてすべての職員が理解している。訪問中は利用者の誇りやプライバシーを損ねるような対応は見られなかった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの日課の過ごし方は、利用者一人ひとりの生活のリズムに配慮して柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は一人だけが検食として利用者と一緒に食事をしてきた。他の職員は介助だけで、休憩時間に持参の弁当を食べている。食事中は和やかな会話は殆ど見られなかった。	○	利用者と職員が、一緒に楽しい雰囲気ですぐに食事ができるような環境作りを前向きに検討してほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1号棟、2号棟の入浴日が交互に異なった曜日に設定されているので、その日に入浴されない利用者は、翌日入浴してもらうなど工夫している。		利用者の希望を引き出し、時間帯などについても検討してほしい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	里芋の皮むきや筍の皮むきなど食材の下ごしらえや食後の盆拭き、菜園作りなど利用者の力を活かした支援を行っている。また、利用者はほとんど毎日、本人の力量に合わせて日記を書くことを楽しみにされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	暖かい日中は庭園での外気浴や利用者の自宅近くへのドライブ、外食等戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけない暮らしの大切さについて理解している。近所の人にも理解を求め、声かけや連絡をもらえる関係作りができています。	○	帰宅願望のある場合、夜間の居室についても、鍵をかけないケアを工夫してほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策についてのマニュアルが整備されており、避難訓練を実施している。地域の人々にも協力が得られるように働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量チェック表により確保の支援をしている。栄養バランス、カロリーについては、法人併設の病院勤務の栄養士に専門的アドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や食堂、廊下、浴室など共用の空間は不快な音や臭いも無く、採光、換気、室温等居心地よく過ごせるよう配慮されている。居間には季節の花が飾られ、利用者手作りの鯉のぼりが掲げられていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には寝具など使い慣れたものや家族の写真、遺影、仏具の持ち込みがあるなど、利用者一人ひとりがその人らしく過ごせるよう配慮されている。		